

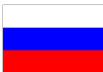
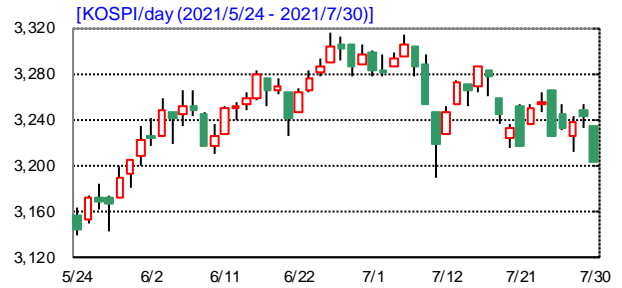


【韓国】 総合指数は週間で1.6%安と続落、今週も上値の重い展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.6%安と続落。米韓両国の企業決算への期待感が買いを支えたが、米 FOMC を前に様子見ムードが強まったほか、新型コロナウイルスの国内感染が再拡大していることも嫌気され、週を通じて狭いレンジでもみ合った。注目された SK ハイニックスとサムスン電子の4-6月期決算は、営業利益がそれぞれ前年同期比38%増、54%増と好調だったが、株価への影響は限定的だった。29日は中国当局が最近の株価急落を受けて市場の安定化に乗り出したことが好感されて韓国市場でも買いが広がったが、30日は外国人投資家や機関投資家の売りに押されて4日ぶりに反落した。国内の新規感染者数が高止まりしていることもあり、今週も上値の重い展開か。経済指標関連では3日に7月のCPIが発表される予定。

▼指数チャート

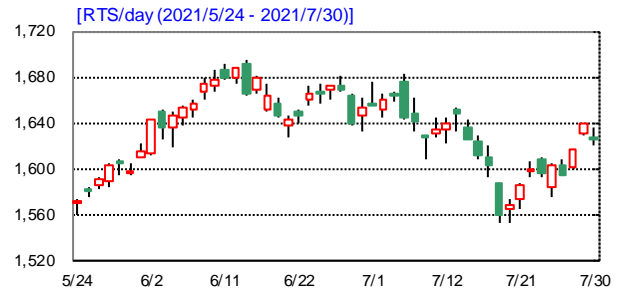


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.9%高と5週ぶり反発、今週は原油相場が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.9%高と5週ぶりに反発。原油高やルーブル高を受けて28-29日に続伸した。週前半はもみ合ったが、原油相場の上昇などで28日に反発すると、29日はFOMCの通過に伴う米ドル安や原油相場の続伸が好感され、ロシア株も続伸した。30日は3日ぶりに反落し、週の上げ幅を縮めた。ブレント原油相場は週間で3.0%上昇し、ルーブルは対米ドルで0.9%上昇した。個別では、エネルギーのノバテクが6.3%高となり、鉄鋼のノボリペツク製鉄所が4.8%高、セヴェルスターリが3.3%高、金融のズベルバンク・オブ・ロシアが3.1%高。一方、ネット検索大手のヤンデックスが4.3%安、エネルギーのルクオイルが2.1%安となった。今週は原油相場や欧米株式市場、コロナ変異株の感染状況をにらんだ展開か。

▼指数チャート



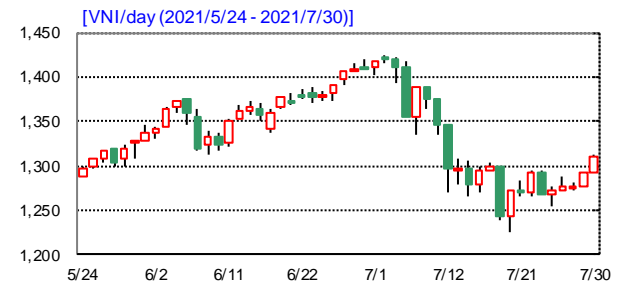
【ベトナム】 ベトナム指数は3.2%高と大幅に4週ぶり反発、今週は調整完了で堅

調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は3.2%高と4週ぶりに大幅反発。前週までの3週続落で調整を終え、主力優良株が出来高を伴って反発した。指数は週半ばまで小じっかりで推移すると、29日は金融や鉄鋼株が買われ、指数は前日比で1.3%高。30日は出来高を伴って主力優良株が幅広く買われ、指数は連日の1.3%高で、結局、5日続伸となった。30日には場中に7月12日以来の高値の1311.97ポイントまで上昇し、1310.05ポイントで引けている。個別では食品加工のマサン・グループが12.6%高と急伸し、ゴム製品のベトナム・ラバーは8.7%上昇。このほか、金融のベトインバンクが5.8%、軍隊商業銀行が4.1%、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が3.5%、鉄鋼のホア・ファット・グループが3.3%上昇した。今週も調整完了で堅調か。

▼指数チャート



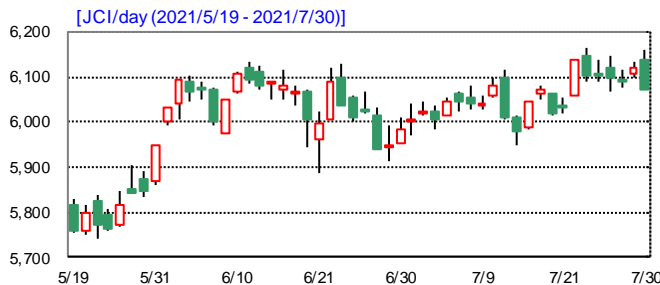


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%安、今週は 5 日に 4-6 月期の GDP 発表

ジャカルタ総合指数は週間で 0.5%安と 6 週ぶりに反落。7 月月間では 1.4%高。先週は週末の下落が痛手だった。週初の 26 日は、前日にジョコ大統領がジャワ島やバリ島での行動制限期間延長を発表したものの影響は軽微で、指数は反発。一方、27 日に米 FOMC の開催を目前に控えた様子見で売られると、28 日は前日の新型コロナによる 1 日当たりの死者数が過去最多となったことで続落した。29 日は NY 原油先物価格の上昇が奏功して買い戻されたが、30 日は前日に大幅反発した中国株が再び下落した流れを受け、反落している。今週は 2 日の 7 月の CPI に続き、5 日には 4-6 月期の GDP 成長率が発表される予定。

▼指数チャート

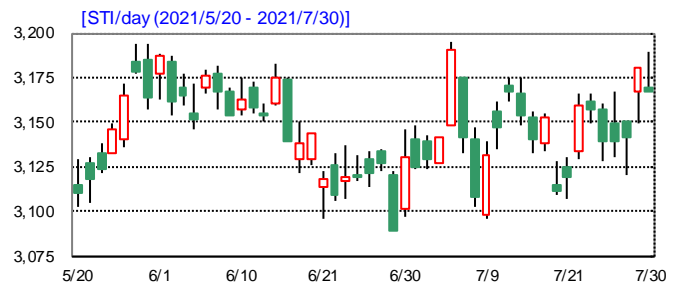


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.3%高、配当規制の緩和で銀行株に買い

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.3%高と 5 週続伸。7 月月間では 1.2%高。先週は銀行株の上昇が奏功した。週初の 26 日は、6 月の鉱工業生産が前年同月比 27.5%増と堅調だったものの、中国株の下落が嫌気されて指数は続落。27 日は前日からほぼ横ばいで推移した後、28 日は 4 営業日ぶりに小幅反発した。29 日は前日に当局が金融機関に対する配当規制を緩和した効果で、銀行大手 3 行が買われ、指数は前日比 1.2%高と続伸。ただ、30 日は引け際に売られ、3 日ぶりに反落して引けている。今週は 2 日の取引終了後に 7 月の製造業 PMI、5 日に 6 月の小売売上高が発表される予定で、市場予想を上回れば好材料。

▼指数チャート

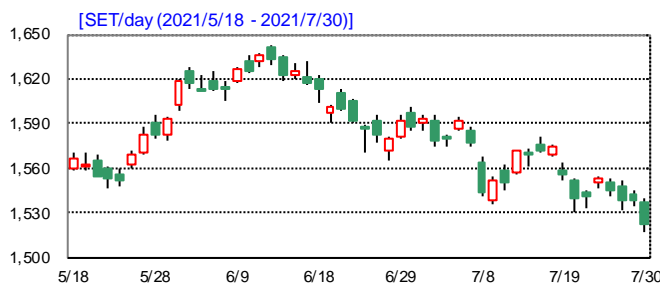


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.5%安、今週は中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催

SET 指数は 3 日間の取引で 1.5%安と続落。7 月月間では 4.1%安。先週は週末の下落が指数を押し下げた。連休明けの 27 日は、新型コロナウイルスの感染者数増加に加え、中国株が政府による教育産業などへの規制強化を受けて大幅下落した影響で続落。祝日を挟んだ 29 日は、前営業日からほぼ横ばいだったが、30 日は財務省が今年の経済成長率見通しをこれまでの 2.3%から 1.3%に下方修正したほか、6 月の鉱工業生産が市場予想からやや下振れたことが売り材料視され、指数は前日比 1.0%安で引けた。今週は 4 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、5 日には 7 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート

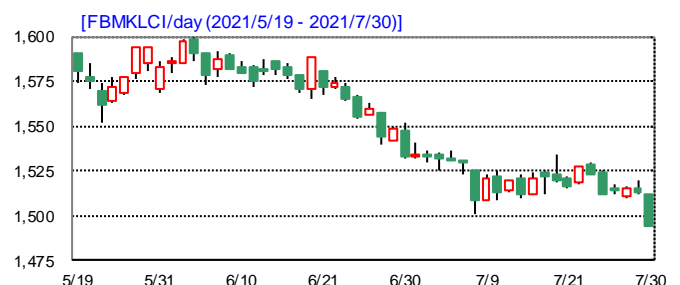


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.9%安、今週は 1500 ポイント回復に期待

クアラルンプール総合指数は週間で 1.9%安と 3 週ぶりに反落。7 月月間では 2.5%安。先週は週末の下落が響いた。26 日は約 7 か月ぶりに再開した連邦議会で目立った混乱は生じなかったものの、新型コロナの感染拡大で幅広い銘柄が売られ、指数は続落。一方、27 日は前日にムヒディン首相が新型コロナからの復興計画について、楽観的な見方を示した効果で反発すると、29 日まで狭いレンジでの値動きが続いた。ただ、30 日は政局に対する先行き不透明感の広がりなどで売られ、指数は前日比 1.2%安と 1500 ポイントを割り込んで引けている。今週は経済イベントが少ない中、この水準を回復できるかが焦点。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。